

# 小平市立小平第十二小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## 1 調査目的・対象

この調査は全国の公立小学校6年生及び公立中学校3年生の学習状況を把握・分析し、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

#### ●主として「知識」の力を見る国語A、算数A

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技術などが中心の問題です。

#### ●主として「活用」の力を見る国語B、算数B

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容が中心の問題です。

#### ●主として「知識」と「活用」の力を併せて見る理科

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

#### 課題

国語Aの正答率は、全国より6.3%、都より3%上回った。12問中、都や全国を下回ったのは、書くこと1問と漢字1問の2問だった。

国語Bの正答率は、全国より5.3%、都より3%上回った。全国を下回ったのは、書くこと1問。都と全国の間が、書く、話す・聞く、各1問。

書くことが苦手である傾向がみられ、A Bともに下回ったのは、文章構成に関する問題だった。文章全体の構成の効果を考える力が求められる。

### 学校で取り組む具体的な改善策

- 漢字の小テストを定期的に行い、一層の定着を図る。また、家庭学習を呼び掛け、反復練習を促す。
- 单元の中で、児童が自分の考えをノート等に記入する時間を十分に確保する。自分の意見を発表したり、他の人の意見を聞いて自分の考えを深めたりする場面を多く設け、思考力や表現力を育てる。
- 読むことの学習の際、文章全体の構成に目を向けさせ、その効果に気づかせるようにする。書くことの学習に際して、事前に構成メモを書かせるなど、文章の組み立て方に留意して書かせるようにする。

### 【算数】

#### 状況の分析

#### 課題

算数Aの正答率は、全国より5.5%、都より2%上回った。都を下回ったのは、14問中6問で、領域はまちまちであった。

算数Bの正答率は、全国より4.5%、都より1%上回った。都を下回ったのは、10問中7問。うち6問は、都と全国の間だった。

下回った問題は、どの領域にもあるが、数量関係が多かった。除法の式の意味に関する問題、数量関係を式に表す問題など、式の理解や表現に課題がみられる。

## 学校で取り組む具体的な改善策

- 授業や家庭学習で、基礎的な計算問題の繰り返し学習を継続していく。十二小タイムでは、東京ベーシック・ドリルを活用し、前年度まで（6年生は4学年まで）の既習事項を着実に習得させる。
- 単に解き方を教えるのではなく、既習事項を活用し解法に導く過程を重視した授業展開を工夫する。
- 数直線や図、表、式、言葉等を用いて、考えを表したり、説明したりする活動を多く取り入れる。とりわけ、自分が書いた式の理由を説明したり、友達の様式から考えを類推したりする活動を充実させる。

### 【理科】

#### 状況の分析

理科の正答率は、全国より2.7%、都より1%上回った。下回った問題は、16問中5問だった。観点別では、技能1問中1問、知識・理解2問中2問が下回った。この2観点は出題数が少なかったが全て下回っていた。思考・表現で下回ったのは12問中2問だった。

#### 課題

理科の正答率は、全体では、都や全国の平均を上回ることができたが、技能、知識・理解は、全問、下回っていた。正しい操作方法を選ぶ問題、用語を書いたり選んだりする問題、理由を記述する問題など、科学的な言葉や概念についての知識・理解、記述式の問題に課題がみられる。

## 学校で取り組む具体的な改善策

- 実験・観察の場を多く設定し、個々の児童が実体験できるよう工夫し、実験・観察の技能を育てる。
- ◎実験や観察の予想・根拠・結果・考察等を記述できるよう、書き方の型を示し書かせるところから、自分なりの書き方を工夫させるところまで、段階的に指導しながら、思考力や表現力を育てていく。
- プリントやワークシートを工夫するなどして、まとめや振り返りをしっかり行うことで、科学的な言葉や概念についての知識や理解を確かなものにする。

### 【質問紙】

#### 状況の分析

「自分にはよいところがあると思う」が51.5%で、全国より10.3%高かった。  
家での勉強時間で一番回答が多かったのが「30分～1時間」の34.8%、全国では「1時間～2時間」の36.9%。「3時間以上」は本校16.7%、都は24.9%。放課後の過ごし方は、学習塾は少なく、習い事やスポーツは比較的多い傾向がみられる。

#### 課題

自己肯定感は比較的高いが、「自分にはよいところがあると思わない」1.5%を0%にしたい。  
都や全国に比べ、家での学習時間が短い傾向にある。6年生は60分以上を目安にしたい。  
読書時間は「2時間以上」の子も「0分」の子も都や全国よりも多く、個人差が大きい。宿題や自主学習に加え、読書も推奨したい。

## 学校等で取り組む具体的な改善策

- 一昨年度、昨年度の「自尊感情を高める指導法の工夫」を引き継ぎつつ、今年度の「大好き！みんなの十二小」を主題とした校内研究を推進する。「考え、議論する道徳」の具現化、「十二小学級会スタイル」を基にした話し合い活動の充実等の取組を通して、自他の良さを認め合い、高め合う児童の育成に努める。周年事業をとおして、学校や地域への感謝や所属感、愛着をさらに深めていく。
- 今年度も例年に引き続き、「十二小家庭学習強化週間」を設け、(学年×10分間)の家庭学習、自主学習、読書等の励行を、児童・保護者に呼び掛けていく。学校以外の学習時間が都や全国の平均と比較して短いこと等をもとに、自分に必要な学習時間を考えさせるなど、毎日のスケジュールを振り返らせる。